



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〔第三四八号〕

芒種 ぼうしゆ

六月五日

## 幟旗

おかげ横丁大黒ホールの「端午の節句企画展―幟旗の展示」で、とても貴重な幟旗が展示されていると聞いて、最終日にかけて行きました。ホールには、色鮮やかな武者絵や豪快な鍾馗さんが描かれたものもあれば、波や宝船といった縁起物もあり、実に多彩で見応えがありました。今年はコロナ禍でも、端午の節句を感じてもらえるものとして、初めて幟旗の展示を行ったと催事担当者が教えてくれました。

幟旗は、男子が生まれると母親の実家から祝いとして贈られたもので、武者の鎧や兜などとセットであったようです。そのため、母方の家紋と男子の家の家紋の2つがともに描かれ、その子の唯一の幟旗に。江戸時代、男子が生まれた家では、幟旗を外に立て、鎧や兜も飾り、祝ったといひます。展示品は2〜7メートルもあり、幟が風になびく様子はさぞ勇壮なことであつたのでしよう。

そして、毎年5月5日の端午の節句の日にも、子どもの健やかな成長を祈り、幟旗を立てたようです。鯉のぼりのルーツと考えられる「登竜門」の幟旗も展示されていきました。鯉が滝を垂直に登ろうとする絵柄で、この節句にちなんだ幟がのちの鯉のぼりになったといひます。

しかし、旧暦の頃、端午の節句は梅雨の最中にあたります。ちなみに今年6月14日。手書きの幟は雨に弱く、雨の日はとて野外には出せません。梅雨の晴れ間に立てていたのかもしれない。

今回の展示は、小学生の頃から幟旗に魅せられたという日本人形文化研究所の林直輝さんの協力のもと行われました。林さんは幟旗の収集品をまだまだお持ちとのことですから、また来年も拝見したいものだと思います。

文 千種清美

# おかげの里便り

## おかげ横丁

### ○『梅雨のおかげ横丁』

6月11日頃は「入梅」と言い、この時期から約30日間を「梅雨」と呼びます。その語源は、「梅の実が黄色く熟す季節の雨」から来ていると言われます。

梅雨の季節を粹に楽しく過ごせるよう、古人は、番傘をさして雨音に耳を傾けたり、きれいに咲く紫陽花に心をませたりしたことでしょう。

おかげ横丁で、しっとりとした雨の風情に包まれながら、心に残る素敵な雨の日の思い出を作りませんか。

日 時／6月19日(土)～6月27日(日) 10:00～17:00 (催しによって異なる)

場 所／おかげ横丁一帯

※社会情勢やその他の事情により、やむを得ず内容の一部または全体を変更させていただきます。ご了承ください。

### ● 梅雨のおかげ横丁企画展「伊勢の園芸」

雨が続く梅雨の季節。水に濡れて美しく輝く苔は、この季節だからこそ楽しめるもののひとつです。盆栽や苔玉、テラリウムなどの苔園芸作品の展示販売や、土日には、特設屋台にて体験教室を行います。

場 所／【展示販売】伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

【体 験】おかげ横丁「特設屋台」

### ● 伊勢の植木市

江戸時代、縁日で人気があった植木市。神様のお膝元で行う縁日は、大変な賑わいをみせました。現在も400年以上続く山形市の春の風物詩『薬師祭植木市』、浅草観音の夏の風物詩『お富士さんの植木市』などがあります。

おかげ横丁の「伊勢の植木市」では、紫陽花をはじめ、盆栽や苔玉など季節の花木が並びます。

場 所／おかげ横丁内「特設屋台」、各店舗

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

## 五十鈴塾

### ○『中国茶を楽しむ』

いつも美味しく楽しい中国茶講座、今回は塾で2種類のお茶とお菓子をいただきます。

一つは青茶のひとつ黄金桂茶。青茶は半発酵茶とされ、その発酵度は茶の種類によって20～80%と異なっています。黄金桂は比較的発酵度が低く製造されているため、水色は薄く、黄金色ようになります。また、かすかに桂花(キンモクセイ)の香りがし、黄金色の桂花の香りを持つお茶ということで、黄金桂と呼ばれています。もう一つは花茶のひとつ八宝茶。漢方でも用いられる数種類の素材を茶葉にブレンドした中国伝統のお茶です。「八宝」とは、「たくさんいい素材」という意味で必ずしも素材の数ではありません。

菊花やクコの実、サンザシなど見た目も鮮やかで、美しく楽しいお茶です。氷砂糖も入っているので少し甘めのお茶になります。そして須永先生お手製のお菓子も楽しみの一つ。作り方も教えてもらいましょう。

と き／6月9日(水) 13:30～15:00

講 師／須永 知佐 (中国茶茶房「茶KURA」オーナー)

参加費／一般2,400円 会員1,900円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となる可能性があります。

## 五十鈴茶屋

### ○『節気菓子』

びわ

枇杷

枇杷の実が鮮やかに色をつける頃となりました。枇杷は果実の美味しさはもとより葉に薬効があり、古くは天平の時代、困民救済の施行で名高い光明皇后が病人を癒すため枇杷の葉を用いたと伝えられています。黄身餡を外郎生地で包み、旬ならではの甘く瑞々しい枇杷の実を表現しました。

なつごも

夏衣

六月は衣更えの月。学生の白いシャツやブラウスが目にも眩しく、夏の訪れを告げるかのようです。昔の人々にも、この時季には、帷子なる麻で織った薄い夏物へと衣更えをしていたといいます。薄紅と緑に染め分けた餡を、透明な葛生地で巻き、涼しく軽やかな夏衣の風情にみたまました。

よひら はな

四片の花

四片の花とは、あじさいの別称。

四枚の花びらがたくさん集まった姿から、その名が生まれたと言われます。

薄紫の錦玉を淡雪で寄せ、ほのかに洋酒が香る白餡を包み込みました。